

# 複式学級の



複式学級担当者の疑問に  
先輩からのアドバイス



Q 授業が計画どおりに進みません。どんなことに着目して授業を改善すればいいですか？

A 次のことを確認してみましょう。

- 課題は適切であったか。
- 子供の経験を踏まえた内容や活動であったか。
- 子供が学習活動の意味やゴールをイメージできていたか。
- 子供の意識の流れに沿った学習展開となっていたか。
- 教師の指示は的確であったか。
- 教師がいない間の手立てが取られていたか。
- 活動時間は適切であったか。

教師の意図と、子供の思いのバランスを考えることは、主体的な学びに向かわせる大切なポイントです。ぜひ、子供たちの目線で見直してみましょう。

チェック項目の一例です。

自分の授業を振り返ることで改善につなげましょう！



Q どうすれば複式学級でスムーズに授業を進めることができますか。

A 複式学級では、より先を見通した計画を立てることが大切です。単式学級の2倍のスパンで計画を立てておくことで、スムーズに授業が進められるだけでなく、様々な状況に対応しやすくなります。

教材研究は、単式学級の2倍の時間が必要・・・と思うと、負担感も大きくなります。ポジティブに「1年間で2学年分の指導ができる(教材研究ができる)」と捉えてみましょう。学年の内容や他学年とのつながり、系統性等がよく分かるようになります。

Q 課題を与え、他学年への「わたり」をして帰ってきたときに、ほとんど課題ができていません。どんな改善方法がありますか。

A 原因として「課題や学習内容を理解できていないため、どのように解決すればよいのか分からない」ということが考えられます。

1時間の流れと子供の実態を踏まえた上で、具体的な学習の手立てを準備することが大切です。

### 【手立ての例】

- ・ 直接指導で必要なことをしっかりと伝える。
- ・ 子供が見通しをもって取り組める具体的な学習の手順を提示する。
- ・ 自力解決ができるヒントカードや能力に応じたワークシート等を準備する。
- ・ 日頃からガイド学習等、子供たちで学習を進める経験を積み重ねておく。

Q 学習内容の理解や課題解決に個人差があり、全体指導と個別指導のバランスの取り方に苦労しています。何かいい方法がありますか？

A 間接学習で、子供だけでの自力解決が難しい場合は、その時間を同時直接指導とし、二つの学年を行き来して個別指導を行う方法があります。また、終末の習熟・応用・発展の時間も同時直接指導にすると、学習内容の理解が不十分な点を指導する時間をつくることができます。

(例)

下学年	習熟	課題把握	自力解決	定着	習熟・応用・発展	
わたり	自力	直接	同時直接	直接	自力	同時直接
	直接	自力	同時直接	自力	直接	同時直接
上学年	課題把握	自力解決		定着	習熟・応用・発展	



→ 「複式学級について」 → [「直接指導と間接指導」](#)、[「『わたり』と『ずらし』」](#) 参照

Q 1学年の児童数が少なく、多様な意見に触れさせることが難しいです。何かいい方法はありませんか。

A 日々の学校生活において、「何をどう伝えるか、伝え合ったことをどう受け止め、どのように生かすか」といった視点を大切にしながら、教師と子供、あるいは子供同士のコミュニケーションが深まるように働き掛けていくことが大切です。また、ICT機器の活用や地域との関わりなどを通して、交流の機会を積極的にもつことも考えられます。

【交流機会を増やす例】

- ・ 学級や全校児童による異学年交流
- ・ タブレット等を活用したWeb会議システム
- ・ ビデオレター、手紙、子供の作品等を活用した情報交換
- ・ 参観日等の学校行事を活用した、保護者や地域との交流の充実
- ・ 近隣の小学校や幼稚園・保育所・認定こども園等との直接交流

「交流する」ことそのものを目的とするのではなく、交流することで、「どのような資質・能力をはぐくむか」ということに着目することが大切です！



→ 「実践事例・アイデア集」 → R1 [「異学年での交流を生かした授業展開の工夫」](#)、R1 [「学校間の交流を生かした授業展開の工夫」](#)  
R2 [「Web会議システムを活用した授業の進め方」](#) 参照



Q 1・2年生の複式学級では、特に年度当初に1年生の指導に時間が掛かります。2年生の指導ではどのようなことに留意すればいいですか？

A 1学期は1年生の指導に時間を要することが多くなるかもしれませんが、2年生に対しては、この機会を捉えて自分で学習する習慣を付けさせたり、1年生に教える場面をつくったりすることで、活躍する場を生み出し、上学年としての自信や自覚を高められるようにしましょう。

1年生のときに積み重ねてきた  
成果を発揮するチャンス！



さすが2年生！  
いろんなことが  
自分でできるなんて  
すごいな～！



Q 異学年の学習内容が気になり、自分の学習に集中できにくい傾向があります。どんな工夫ができますか？

A 学習環境と学習ルールを工夫しましょう。

### ＜学習環境＞

基本的な学習環境となる座席配置について、学校や学級の実態に応じて、背面型やL字型など、子供に適した環境を探しましょう。

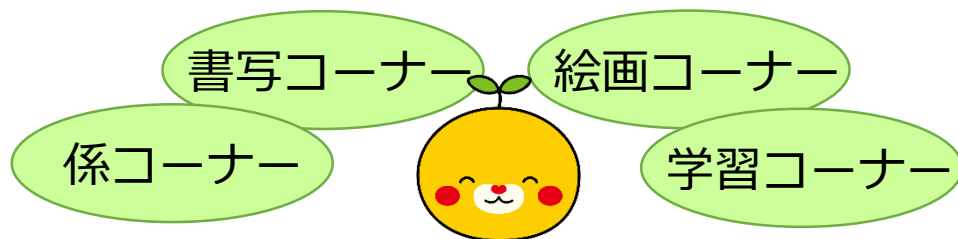
### ＜学習ルール＞

学年に応じたルールを、子供が必要性感じながら守れるように、特に複式学級スタート時に丁寧に指導しましょう。



Q 教室の掲示スペースが、人数に対して大きすぎて困っています。効果的な使い方はありますか？

A 年度当初に、ある程度コーナーを固定し、「貼り重ねるもの」「貼り替えるもの」「貼り加えるもの」などに分けておくと便利です。また、「1年間の足跡」を年表形式で活動記録として残したり、個々の学習活動の成果をポートフォリオ形式で更新したりするなどの使い方ができるのも、少人数の強みです。



Q 複式学級に対して保護者の方が不安を感じています。どのようなことを伝えればいいですか？

A 複式学級のメリットや一人一人の子供の具体的な育ちの姿を伝えたり、複式学級のおよさを生かした学習活動を参観日等で実際に見てもらったりすることが、保護者の不安解消につながります。また、教科によってはAB年度方式で年間指導計画を作成し、学習を進めるなど、単式学級とは異なる取組がある際は、年度初めに説明し、理解と協力を得ることが必要です。

子供たちが「学校が楽しい」「勉強が分かる」と実感できる学級、学校づくりに向けた教師の前向きな姿勢も大切です。